

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家ぎふ(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	平成27年9月7日	評価結果市町村受理日	平成27年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101618-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

引っ越しして来て、丸3年が経ちました。毎日、掃除、洗濯、買物、調理など助け合いながら暮らしています。それに加え、今年は子どもたちの下校時のみまもり隊を、お手伝いさせてもらっています。フリーペーパーを見て出かけ、テレビで食べ物特集を見ると「食べたいね」と作って食べたり、ワイワイと楽しい穏やかな時間があります。ここでの暮らしが長くなり、少しずつ重度化していく方が、馴染みの中で安心して暮らせるよう、訪問看護師さんによる健康管理をお願いするようになり、職員も医療面でも安心して支援ができるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、利用者がその人らしく、自宅で自由に過ごしている感覚になれるようなホームを目指している。また、職員も、利用者が自分の意思で動ける間は、出来る限り、本人の思いが叶えられるよう支援し、より良いケアに取り組んでいる。将来を見据え、重度化に対応できるよう、車椅子対応の福祉車両の導入や、安全に入浴できるリフトの設置を行なっている。常に一歩進んだ対応や、週1回の訪問看護、24時間、医師との連絡がとれる体制などが、利用者と家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続ける」と理念を掲げ、窮屈な生活にならないよう、家でリラックスしているように伸び伸びと自由な選択肢のある生活を実践しています。	利用者にとって、ホームでの暮らしが、自宅で生活している延長線上であると捉えている。管理者、職員間で理念を共有し、常に模索しながら、個別支援につなげ、その人らしい暮らしができるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で情報を得、地域清掃に参加しています。こども110番、今年も地域の小学校のみまもり隊をやらせて頂き、下校時に見守り、挨拶を交わしています。	自治会に加入し、こども110番の家や小学校のみまもり隊に、地域の一員として積極的に参加している。買い物や散歩時に、子ども達や地域の人への声かけや、挨拶をすることで、ホームの存在や、利用者の顔を覚えてもらえるよう、積極的に働きかけている。	地域の小学生との関わりから、子供会や小、中学校へ働きかけ、体験学習の受け入れやホームの地域交流室の開放など、地域に開かれたホームとなるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買物や散歩の時などで、あいさつをしたり、職員とご利用者との関わりを見てもらいながら、認知症の方の理解や支援の方法を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、2ヶ月に1回、その中で、ご家族も参加しやすいように週末に開催し、今年は福祉用具の正しい選び方など勉強しました。また、取り組み状況を報告し、社会資源などの意見を頂くなどサービス向上に活かしています。	運営推進会議は、自治会、民生委員、地域包括支援センターや市担当者だけでなく、定期的に家族の参加もある。市担当者から福祉用具に関する助成金情報、民生委員からは、立地に関する問題提議や避難訓練について等、様々な意見が出され、前向きに検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へはホームの実情を報告しています。福祉事務所、地域包括支援センターには、困難ケースなど、ご入居前から相談、助言を得、入居後も安心して生活ができるよう取り組んでいます。	以前、独居が困難で、身寄りの無い人の受け入れを行った。経済面や後見人制度について、市担当者や地域包括支援センターに相談し、協力を得て、利用者にとって最善の方法が取れるよう連携を図り、対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を、法人内の勉強会で学んでいます。玄関は夜間以外は開放、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	法人主催の研修会が定期的実施され、身体拘束に関する研修も、一部職員が受講し、研修後に職員間のカンファレンス等で内容を報告、伝達している。ユニット間の行き来は自由で、日中は玄関や窓の施錠をせず、環境を整える方向で、見守りを重視した支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で学び、防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム はるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で学んでいます。必要性のある方は入居前より関係者と話し合い、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、改定時は説明を行い、不安な点や疑問点に答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ホームとご利用者ごとの様子を便りにし、お送りしています。来設の際に職員からも声をかけ、要望など聞かせてもらってます。	家族の面会時に、積極的に意見や意向を聞いている。また、日常の変化に関しては、電話やメールでも密に連絡をとり、意見交換をしている。毎月送付しているホーム便りは、日常の暮らしぶりや行事の様子、利用者個別の現状報告の記載をし、家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見が出ます。それ以外でも意見や提案を聞き、必要であれば反映させています。	職員は、毎月のミーティングや日々の申し送り等で、利用者の思いを把握し、その思いを汲んだイベントの提案を出している。この夏は流しそうめん、アイスクリーム作りを実施し、秋には月見団子作りを予定するなど、職員の意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、向上心を持ち、安心して働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を開いています。外部の研修に参加するよう促し、参加する場合は勤務の調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の交流会に参加できる機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申込から面談まで、ご本人、ご家族、関係者より話しをよく聞き、ご本人が安心してもらえるよう、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みから面談の間に話しを聞き、困っていることや不安なことなど耳を傾けながら、よい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込から面談の間に、聞かせて頂いたお話を元に、必要な支援、サービスを検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、買物など出来ることを引き受けて頂き、ご利用者同士助け合い、励まし合いつつ、良い関係を築かれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、一緒にご利用者を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に行きたいという場所に出向き、また友人にいつでも来て頂けるよう努めています。	利用者の知人や友人の訪問が頻繁にある。以前、住んでいた地域の馴染みのお好み焼き屋やブティック、お墓参りや行きつけの美容院へ行く等、馴染みの関係が継続できるよう、個別支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係をよく観察しながら、日常の役割分担などさりげなく支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされるなら、いつでも相談や支援に応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア会議にてご利用者の思いや希望など気づいたことを話し合います。困難な場合は、入居前の事、ここでの暮らしぶりを思いあぐね、検討しています。	事前情報を基に、日常の会話や1対1の入浴の機会を利用して、思いや意向を会話の中から引き出している。職員が、時間をかけて支援した結果、今では、ホーム前の店舗まで、一人で買い物に行くことができるようになった利用者もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族関係者から聞き取りをし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に残し、毎月のミーティングで職員間で確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月毎に、ご家族から要望を聞き、主治医から意見を頂きます。ご本人には日々聞いた、困難な場合は思いを汲んで介護計画を作成しています。	事業所独自の利用者目線で作られた「私の願い」「気をつけてほしいこと」などから、出来ること、出来ないことに配慮し、具体的な介護計画を作成している。また、定期的なモニタリングで、目標の達成度を評価し、家族の意見を組み込み、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に残し、食事の工夫や1日の生活リズムの変化など、職員間で話し合いながら、介護計画の見直し、実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談、協力頂きながら柔軟に対応出来るよう努めています。		

岐阜県 グループホーム はるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物、ボランティアさんと楽しくおしゃべり、散歩など、見覚えのある安心した環境で楽しんでいます。下校時のみまもり隊では「気をつけてかえりゃーよ」と自然に声をかけておられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に心配事をかかりつけ医に報告回答を家族に伝えたり、往診時に直接ご家族と電話でお話されるなど、安心できる関係づくりに努めています。	以前からのかかりつけ医の人が多く、往診や受診で対応している。協力医とは、24時間医師との連絡が取れ、週1回の訪問看護体制も整っている。緊急時は、家族と連携し、状況に応じて、臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護ステーションより健康管理をお願いし、日々の気づきを伝え、相談しています。往診時のアドバイスや観察の要点を教えてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、主治医に連絡、、退院しても安心して暮らせるよう情報を伝えています。入院先には加療中の様子など担当医師、看護師、地域連携室等と情報交換や相談し、良い関係づくり、早期退院、受入ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より話しあっていますが、その都度も話しています。ご家族の心配は大きいので、主治医や訪問看護師とも相談しながらご家族に寄り添いつつ支援出来るよう努めています。	重度化や終末期に関する指針がある。ホームで出来る範囲での終末期支援は可能である。利用者、家族の状況や、気持ちの変化に応じて、十分な話し合いを持ち、適切な支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師に教えて頂くなどし、定期的に学び、実践につなげています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定も入れ、消防署の立ち会いの元、避難訓練をしています。毎年、ご利用者の状況も変化し、対応方法もその都度、消防署員よりアドバイスももらっています。	年2回の避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議でのアドバイスを受け、最近の集中豪雨に備えた水害時の避難として、1階から2階への移動訓練を予定している。また、備蓄に関しても、一部を2階に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲に配慮した声掛けを行っています。誇りやプライバシーなど自分の身におきかえて配慮するようにしています。	利用者個々の日々の暮らしぶりを、職員は十分把握した上で支援している。声かけは常に視線をあわせ、耳元で囁くようにするなど、個別の配慮がある。また排泄に関しても、周囲への配慮を忘れず、利用者の仕草を見落とさないようにして、優しく対応している	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定しやすい雰囲気作りに気を配っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、1日を過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれができるよう声掛け、見守りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に買物、食事の準備、片付けをしています。	食事はホームで調理している。メニューは1階、2階とユニットで異なるが、職員は材料を見て、利用者の好きなものを出来るだけ提供するように努めている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲んで、同じ物を食べ、食べ終わった利用者は、手際よく洗い物を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事の摂取量、水分量を記録し、一人ひとりに合った方法で支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない所はお手伝いし口腔ケアを行っています。 全員ではないが、希望者には訪問歯科による口腔清掃、アドバイスをもらい実践しています。		

岐阜県 グループホーム はるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人からの訴え以外に時間をみてトイレ誘導を行い、排泄の失敗を防ぐよう努めています。	定期的な声かけや誘導で、排泄リズムを取り戻し、改善した人もある。常時オムツ使用の利用者はなく、リハビリパンツ、布パンツが主体である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘により食事や乳酸菌飲料を飲んでもらい体操をしています。お砂糖代わりにオリゴ糖を利用し便秘予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも入れるよう準備しています。毎日はいれる方は毎日、お風呂がお好きでない方は無理強いないよう、その気になったタイミングで入って頂きます。	入浴日は決まっていないが、午後からは、いつでも入浴できる体制であり、毎日入浴の利用者もある。重度化に向けリフトも導入され、利用者の状況に応じ、安心、安全に入浴することが可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息したり、眠っておられます。なかなか寝付けない時は、職員と過ごしたり、ホットミルクを飲んでリラックスして頂くなど、ゆったり過ごされます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読んで理解に努め、薬局さんにも教えてもらったり、服薬時のアドバイスももらったりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じて散歩、買物など気分転換ができるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体力や希望に合わせ、桜やあじさいを見に遠くへ出かけたり、外食に出かけています。晴れの日には近所の散歩の声掛けをし、かけています。	季節や天候、利用者の体調に応じて、近隣の散歩や買い物に出かけている。利用者の重度化に伴い、車椅子対応の福祉車両の導入をし、利用者の希望や、職員の提案をもとに、積極的な外出支援をしている。	

岐阜県 グループホーム はるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に合わせています。お金を所持している人は管理を任せ、使った金額を把握できるようにし、支払いができる人は買い物時にお財布を渡して好みの物を買ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、そばで見守り、支援が必要な時は行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がないよう、音や臭いに配慮しています。リビング、玄関には季節の花を飾り、居心地良く過ごせる空間作りをしています。	建物はシンプルで、何処からでも利用者の様子がうかがえ、見守ることが出来る開放的な構造である。風通しや日当たりも良く、一軒の住み慣れた家、家庭のぬくもりを感じさせる、落ち着いた雰囲気のあるホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置いて思い思いに過ごせるような空間が作れるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族とも相談しながら使い慣れた家具や好みの物がおけるよう工夫しています。	居室は、利用者が思い思いの馴染みの家具や、身の回りの品々を持ち込み、個性豊かで自由な空間である。状態や希望に応じて、マットレスを使用している利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力にあわせ、名前などでわかるようにしています。テーブルなどの配置は、みなさんの動線の妨げにならないよう工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101618		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家ぎふ(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	平成27年9月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人がその人としてその人らしく生きるために支え続ける」と理念を掲げ、窮屈な生活にならないよう、家でリラックスしている時のように伸び伸びと自由な選択肢のある生活を実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板で情報を得、地域清掃に参加しています。こども110番、今年は地域の小学校のみまもり隊をやらせて頂き、下校時に見守り、挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	買物や散歩の時などで、あいさつをしたり、職員とご利用者との関わりを見てもらいながら、認知症の方の理解や支援の方法を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、2ヶ月に1回、その中で、ご家族も参加しやすいように週末に開催し、今年は福祉用具の正しい選び方など勉強しました。また、取り組み状況を報告し、社会資源などの意見を頂くなどサービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へはホームの実情を報告しています。福祉事務所、地域包括支援センターには、困難ケースなど、ご入居前から相談、助言を得、入居後も安心して生活ができるよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会で学んでいます。玄関は夜間以外は開放、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会で学び、防止に努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会で学んでいます。必要性のある方は入居前より関係者と話し合い、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、改定時は説明を行い、不安な点や疑問点に答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ホームとご利用者ごとの様子を便りにし、お伝えしています。来設の際に職員からも声をかけ、要望など聞かせてもらい、ミーティングで共有しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで職員の意見が出ます。それ以外でも意見や提案を聞き、必要であれば反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい、向上心をもち、安心して働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で勉強会を開いています。外部の研修に参加するよう促し、参加する場合は勤務の調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社外の交流会に参加できる機会を作り、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から始まり、ご本人、ご家族、関係者より聞き取りを行っています。入居初期もじっくり耳を傾け、よい関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から入居後も、ゆっくりと話を聞かせてもらっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込から面談の間に、聞かせて頂いたお話を元に、必要な支援、サービスを検討するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、買物など出来ることを引き受けて頂き、ご利用者同士助け合い、励まし合いつつ、良い関係を築かれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら、一緒にご利用者を支えていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力し、支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係をよく観察しながら、日常の役割分担などさりげなく支援させて頂いています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされるなら、いつでも相談や支援に応じます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気づいたことや、困難な場合は自分に置き換え、毎月のミーティングで話し合っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族関係者から聞き取りをし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に残し、毎月のミーティングで職員間で確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に、ご家族から要望を聞き、主治医から意見を頂きます。ご本人には日々聞いたり、困難な場合は思いを汲んで介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に残し、食事の工夫や1日の生活リズムの変化など、職員間で話し合いながら、介護計画の見直し、実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談、協力頂きながら柔軟に対応出来るよう努めています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への買物、ボランティアさんと楽しくおしゃべり、散歩など、見覚えのある安心した環境で楽しんでいます。下校時のみまもり隊では「気をつけてかえりゃーよ」と自然に声をかけておられます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に心配事をかかりつけ医に報告回答を家族に伝えたり、往診時に直接ご家族と電話でお話されるなど、安心できる関係づくりに努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護ステーションより健康管理をお願いし、日々の気づきを伝え、相談しています。往診時のアドバイスや観察の要点を教えてもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、主治医に連絡し、退院しても安心して暮らせるよう情報を伝えています。入院先には加療中の様子など担当医師、看護師、地域連携室等と情報交換や相談し、良い関係づくり、早期退院、受入ができるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より話しあっていますが、その都度も話しています。ご家族の心配は大きいので、主治医や訪問看護師とも相談しながらご家族に寄り添いつつ支援出来るよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に学び、実践につなげています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定も入れ、消防署の立ち会いの元、避難訓練をしています。毎年、ご利用者の状況も変化し、対応方法もその都度、消防署員よりアドバイスをもらっています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周囲に配慮した声掛けをし、失礼のないよう気をつけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が自己決定しやすい雰囲気作りに気を配っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、1日を過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれ、整髪ができるよう声掛け、見守りをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かいものは温かく食べれるよう、職員と一緒に買物、食事の準備、片付けをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事の摂取量、水分量を記録し、一人ひとりに合った方法で支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕を中心に、その人に合った支援を行っています。 全員ではないが、希望者には訪問歯科による口腔清掃、アドバイスをもらい実践しています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人からの訴え以外に時間をみて誘導し、トイレでの排泄をと支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使ってみえる方もおられるが、食事水分など、その方にあつた方法を工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週2, 3回入浴されますが、希望される時はそれ以上入っておられる方もみえます。2人介助が必要な方が3人おられ、週2回、職員を調整し支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休んで頂きます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を読んで理解に努め、症状の変化に気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の力に応じて散歩、買物など気分転換ができるよう工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物外食など、ご利用者の力など考慮しながらかけています。普段行けない所などご利用者の希望に沿ってはなかなか出来ず、今後の課題となっています。		

岐阜県 グループホームはるすのお家ぎふ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に合わせています。お金を所持している人は管理を任せ、使った金額を把握できるようにし、支払いができる人は買い物時にお財布を渡して好みの物を買ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、そばで見守り、支援が必要な時は行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい清潔な環境を保つよう努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置いて思い思いに過ごせるような空間が作れるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力にあわせ、名前などでわかるようにしています。テーブルなどの配置は、みなさんの動線の妨げにならないよう工夫しています。		